

日明貿易と東アジアの交流

1 / 1

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

今日の問い

室町時代の日本は、明や朝鮮、琉球・蝦夷地とどのように交流したのだろうか。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 日明貿易と朝鮮との交流

東アジアとの交流

にちみんぼうえき
日明貿易

勘合を用いて行われた、日本と明との貿易。勘合貿易ともいう。

かんごう
勘合

正式な貿易船と倭寇を区別するために用いた証明書。

りせいけい
李成桂

1392年に高麗をほろぼし、朝鮮を建国した人物。

14世紀後半、中国で明が建国され、元を北へ追いやった。そのころ中国や朝鮮半島の沿岸では、倭寇とよばれる海賊が船や村をおそっていた。明は倭寇の取りしまりを日本に求め、足利義満はこれに応じて、明の皇帝に貢ぎ物をおくる朝貢の形で貿易を始めた。

正式な貿易船と倭寇を区別するため勘合という証明書を用いたので、この貿易を日明貿易（勘合貿易）という。日明貿易は義満の死後に一時とだえたが、のちに再開され、やがて実権は有力な守護大名と、堺や博多の商人に移っていった。

朝鮮半島では1392年、李成桂が高麗をほろぼして朝鮮を建国した。朝鮮では15世紀中ごろに、独自の文字であるハングルがつくられた。日本は朝鮮とも貿易を行い、木綿などを輸入した。

貿易	日本から	日本へ
日明貿易	銅・硫黄・刀剣など	銅銭・生糸・陶磁器など
日朝貿易	銅・硫黄など	木綿・仏教の経典など

2 琉球王国とアイヌ民族との交流

南と北の交流

りゅうきゅうおうこく
琉球王国

1429年に尚氏が沖縄島を統一して建てた王国。都は首里。

ちゅうけいぼうえき
中継貿易

各地の産物を仕入れ、別の国へ取り次いで利益を得る貿易。

あynuぞく
アイヌ民族

蝦夷地(北海道)などに住み、独自の言葉や文化をもつ人々。

沖縄島では三つの勢力が争っていたが、1429年に中山の王の尚氏がこれを統一して琉球王国を建てた。琉球王国は都の首里を中心に、明・日本・朝鮮・東南アジアの国々と船で行き来し、ある国の産物を仕入れて別の国へ売る中継貿易で栄えた。

蝦夷地(北海道)にはアイヌ民族が住み、狩りや漁、交易をして暮らしていた。アイヌの人々がとった鮭や昆布などは、津軽(青森県)の十三湊などを経て京都にも運ばれた。15世紀に和人(本州の人々)が蝦夷地の南部(渡島半島)に進出し、不公平な取引も増えると、1457年、首長のコシャマインを中心にアイヌの人々が立ち上がった(コシャマインの戦い)。

問いへの答え

足利義満は、倭寇の取りしまりを求めた明と、勘合を用いた日明貿易を始めた。朝鮮とも貿易を行い、木綿などを輸入した。琉球王国は首里を中心に、明や日本、東南アジアの国々を結ぶ中継貿易で栄えた。蝦夷地のアイヌ民族は和人と交易したが、和人の進出が強まると、1457年にコシャマインの戦いが起こった。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

